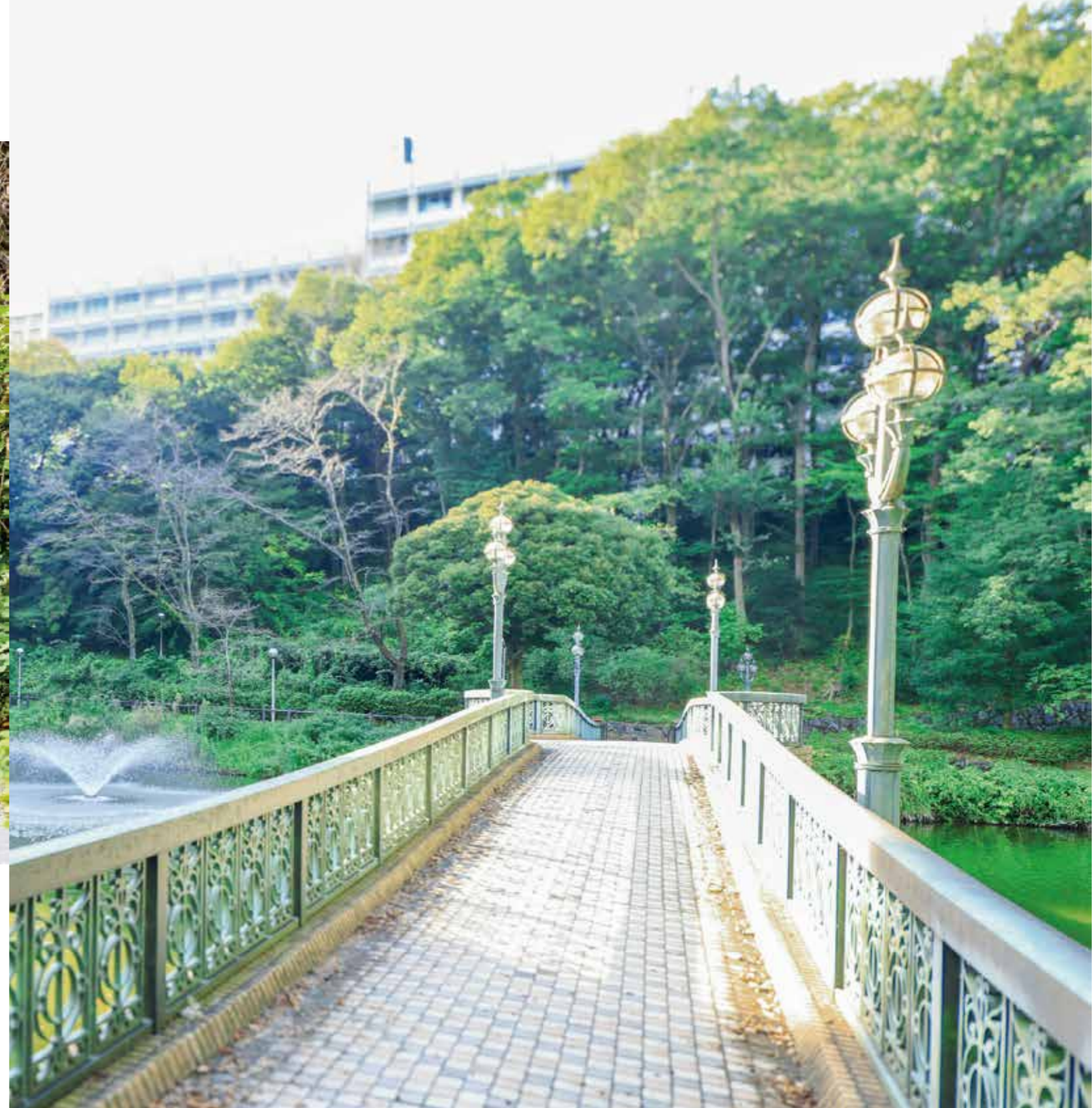


SOKA Sustainable Campus 2026

— 創価大学の方針と取り組み —



Contents

00	Contents	1
01	創価大学の方針と取り組み	3
02	サステナブルなキャンパス	9
03	実践的な学びの提供	11
04	情報問い合わせ・リンク集	14

学校法人創価大学

- 設立 :1971年4月
- 学部 : 経済経営学部、法学部、文学部、教育学部、理工学部、看護学部、国際教養学部
- 通信教育部 : 経済経営学部、法学部、文学部、教育学部
- 大学院 : 経済学研究科、法学研究科、文学研究科、教育学研究科、理工学研究科、国際平和学研究科
- 専門職大学院 : 法務研究科（法科大学院）、教職研究科（教職大学院）
- 短期大学 : 国際ビジネス学科
- 学生数 : 学部／6,046名、大学院（専門職大学院含む）／428名、短期大学／193名（2025年5月1日時点）

建学の精神

- 人間教育の最高学府たれ
Be the highest seat of learning for humanistic education
- 新しき大文化建設の揺籃たれ
Be the cradle of a new culture
- 人類の平和を守るフォートレス（要塞）たれ
Be a fortress for the peace of humankind



気候変動の時代を生きる

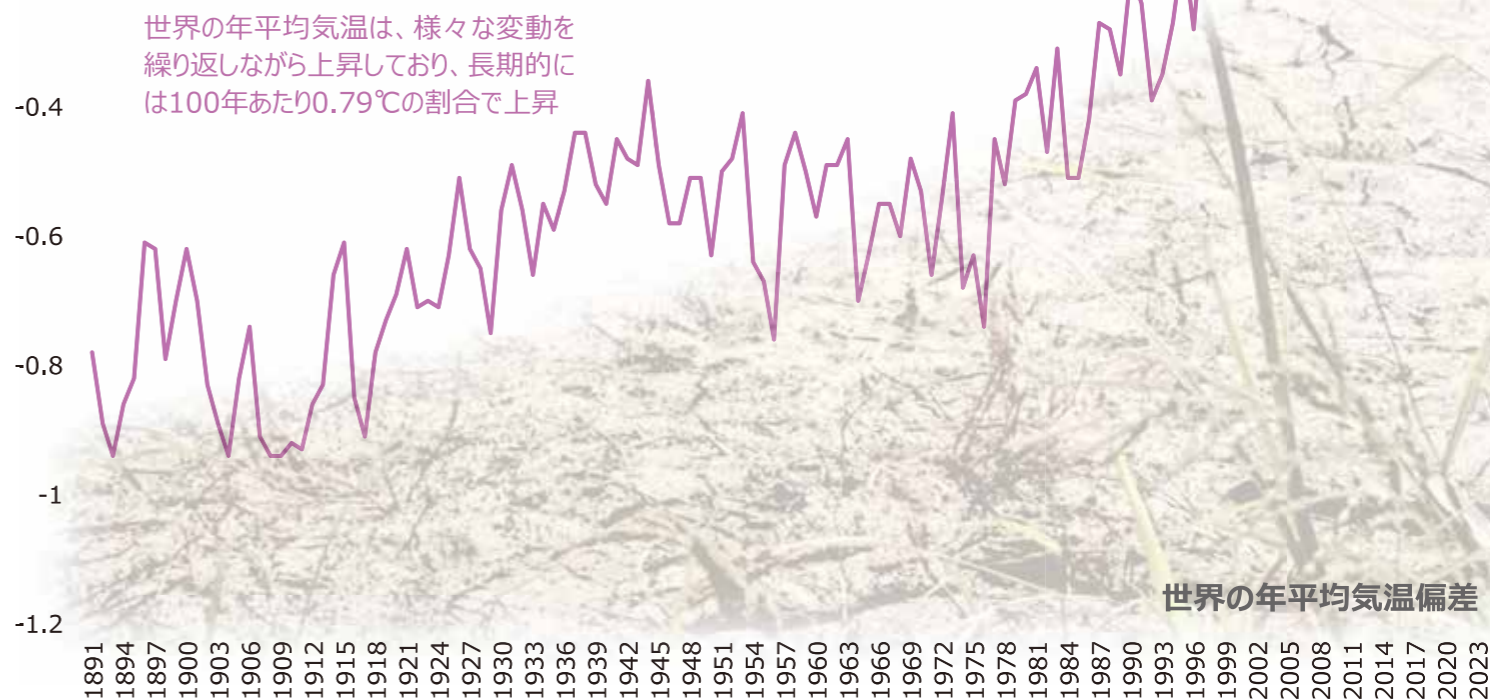
(°C)
0.8
0.6
0.4
0.2
0
-0.2
-0.4
-0.6
-0.8
-1
-1.2



今、世界が危ない？

地球温暖化の進行による気候変動が問題となっています。日本でも猛暑や豪雨災害の増加などの影響が出ており、将来的には四季がなくなり、春の花見や秋の紅葉などを楽しめなくなるかもしれません。

こうした中、2015年、COP21で、世界レベルで協力し、世界の平均気温上昇を抑制することに合意し、2016年11月にパリ協定が発効しました。そのためには、2050年までに温室効果ガスの実質排出量ゼロを達成する、“カーボンニュートラル”の実現が世界の目標となっています。



若い力が社会を変える

スウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんをご存知ですか。彼女は15歳の時に、気候変動を訴えるストライキをはじめ、この行動が世界中に広がり、多くの海外の大学生の行動を変えたことで大きなムーブメントになりました。一人の若者の行動も世界の意識を変化させる力があります。学生の“若い力”とともに創価大学は、カーボンニュートラル達成に挑戦します。

01 創価大学の方針と取り組み

創価大学は、気候変動による地球環境問題は、現在を生きる私たちだけの問題では決してなく、後に続く世代の未来を奪うことになりかねない問題であると捉えています。こうした観点から、2021年には「学校法人創価大学気候非常事態宣言」を発出し、気候変動問題に対して、教職員、学生が一丸となって取り組んでいます。ここでは、創価大学の取り組みについて紹介します。

トップメッセージ

創 創価大学は、次代を担う学生たちが学び、成長する場として、サステナブルなキャンパスづくりを推進しています。本学は、2050年のカーボンニュートラル実現を明確な目標として掲げ、省エネ設備の導入や再生可能エネルギーへの転換に法人をあげて進めております。未来世代に誇れる大学であり続けるため、社会的責任を自覚し、持続可能な社会の実現に向けて、歩みを止めることなく挑戦を続けてまいります。



理事長 秋谷芳英

本 学の教育の使命は、SDGsの達成に寄与する「世界市民」の育成にあります。全学で展開する「SDGsグッドプラクティスコンテスト」や、体系的に学べる「SDGs副専攻」制度を通じて、学生たちは専門知を社会課題の解決に結びつける力を養っています。持続可能な社会は、一人ひとりの学びと行動から始まります。対話と価値創造の精神で、共に地球社会の明日を拓いていきましょう。



学長 鈴木美華

気候非常事態宣言（2021年4月2日）

- 2050年、カーボンニュートラルを目指して、再生可能エネルギーの一層の拡大導入及び省エネルギーに努めます。
- 「スーパーグローバル大学創成支援」に採択された“Top Global University”の一大学として、また「国連アカデミック・インパクト」及び「国連大学SDGs大学連携プラットフォーム」加盟大学として、**国連が掲げるSDGs達成に向けて取り組みます。**
- 教職員は教育・研究及び日常業務を通じて、目標達成に挑みます。また、気候危機に関する講義及び学習の場を充実させ、カーボンニュートラル達成に向け、貢献できる人材を育成します。
- 法人の取り組みについては、全学協議会などを通じて、**教職員、学生が一体となり、カーボンニュートラルに向けた具体的な行動を策定し、実践に移していきます。**
- 学内のReduce（リデュース：廃棄物の発生を抑制）、Reuse（リユース：廃棄物の再使用）、Recycle（リサイクル：廃棄物の再生利用）、Refuse（リフューズ：廃棄物の発生回避）を推進すると共に、エシカル消費を実践します。
- 国連をはじめとして、**地域及びステークホルダーとのパートナーシップ**により、目標を実現します。
- 自然豊かな**キャンパスの生物多様性**を慈しみ保全します。

Grand Design 2021-2030

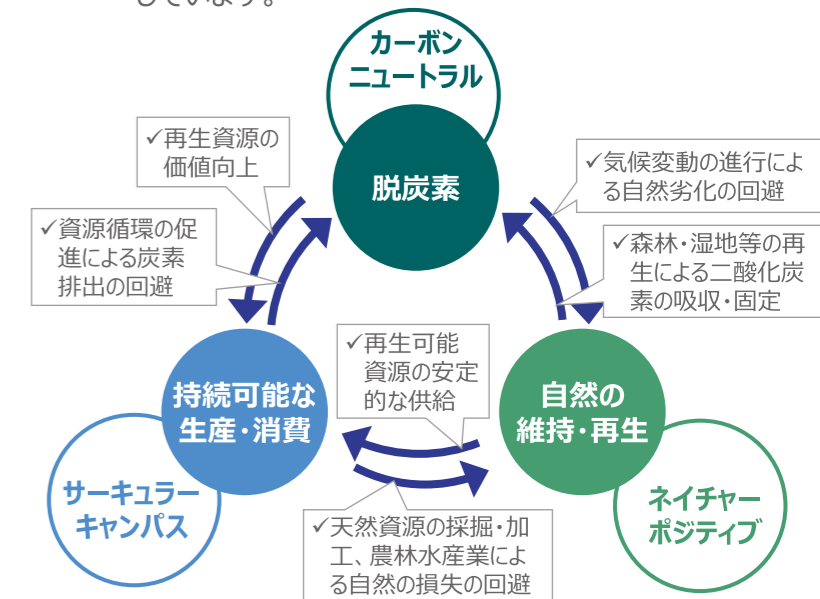
創価大学は、10か年の中長期計画「Soka University Grand Design 2021-2030」を策定しています。

持続的に発展するための「経営基盤の構築」の中で、「キャンパス整備：サステナブルキャンパスの推進」を掲げており、「2050年カーボンニュートラル達成に向けたロードマップ」を作成し、取り組みを進めています。



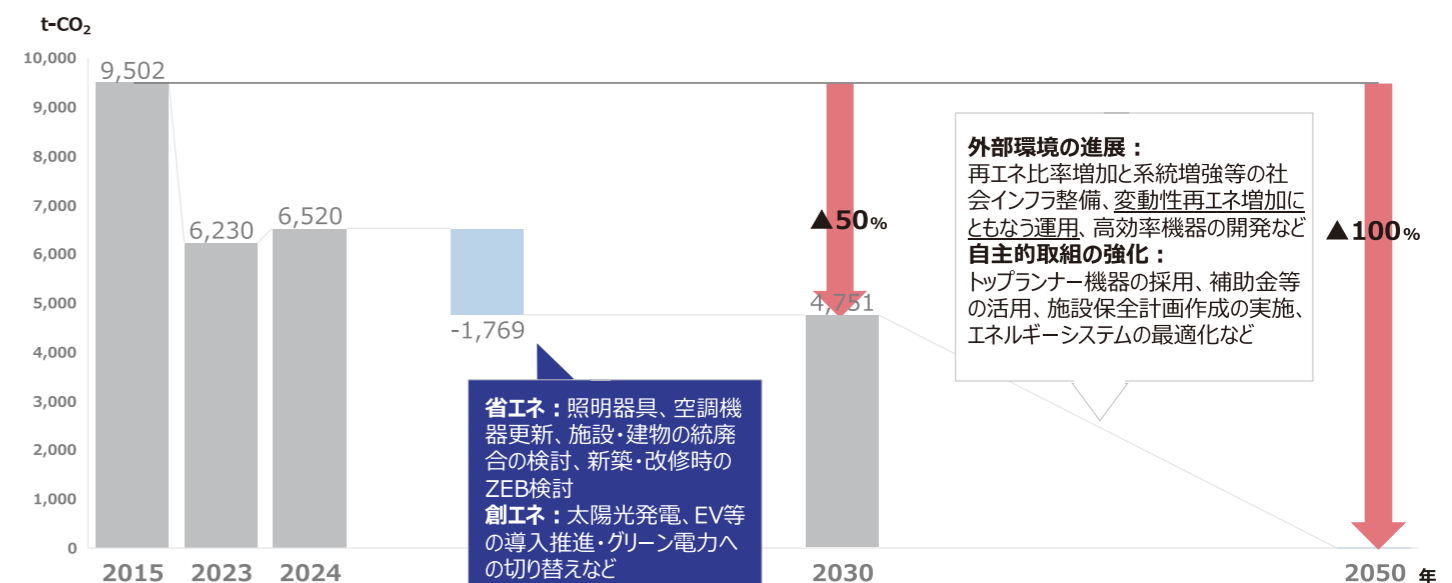
目指すべき姿

サステナブルキャンパスの実現に向けて、カーボンニュートラルやサーキュラーキャンパス（循環型社会）に関する活動に加え、相互に密接に関連するネイチャーポジティブを意識した取り組みも実施しています。



カーボンニュートラル達成に向けたロードマップ

ロードマップでは、2050年のカーボンニュートラル達成に向け、2030年度にはScope1及び2の温室効果ガス排出量を2015年度比で50%削減することを中間目標として設定し、「省エネルギー」と「創エネルギー」に関する施策、グリーン電力への切り替えを実施しています。



カーボンニュートラル

温室効果ガスの削減にあたっては、創価大学の排出量だけでなく、大学運営に関するあらゆる排出を合計したサプライチェーン排出量の削減を目指しています。
 なお、このサプライチェーン排出量は右のScope 1～3で構成されています。

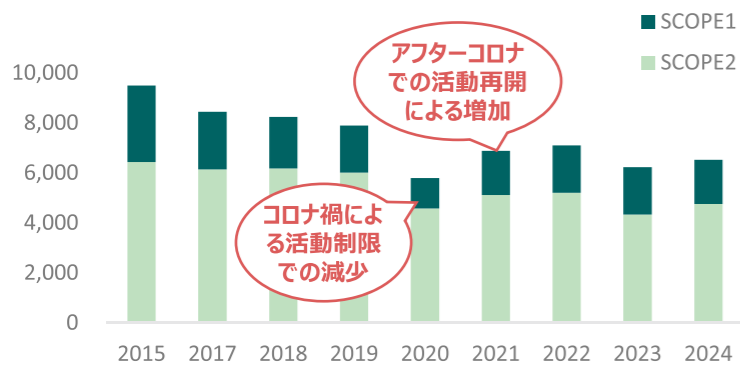
- Scope 1 : 自らによる温室効果ガスの直接排出
- Scope 2 : 他社から供給された電気、熱、蒸気の使用に伴う間接排出
- Scope 3 : Scope1、Scope2以外の間接排出

Scope1、2

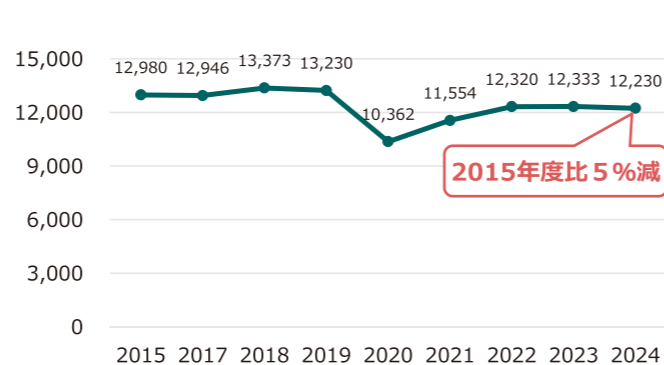
現状

2015年度以降のScope1及びScope2の温室効果ガス排出量を算定しています。2015年度から2019年度にかけては、エネルギー効率の向上によるエネルギー消費量の減少（機器の刷新、省エネの推進等）、2022年度以降は非化石証書の購入や購入電力の排出係数低下により、CO₂排出量が減少しています。

Scope1,2排出量 (t-CO₂eq)



電気量の推移 (千kWh)



創エネルギー

2026年3月、短大屋上に4カ所目となる太陽光発電システムを導入しました。これにより計4カ所で最大287kWの発電体制となり、年間約140トンのCO₂を削減できる見込みです。今後も更なる設置を検討しています。



省エネルギー

照明器具・空調機器更新、施設・建物の統廃合の検討、新築・改修時のZEB検討を進めており、有効な省エネ対策を採用するため、エネルギー消費量の多い施設のエネルギー特性を分析しています。



再生可能エネルギー

2026年度より、使用電力の50%を水力由来の「生グリーン電気」へ切り替えました。これにより年間約3,000トンのCO₂を削減できる見込みです。既設の水力発電所から調達するため、森林破壊の心配もありません。



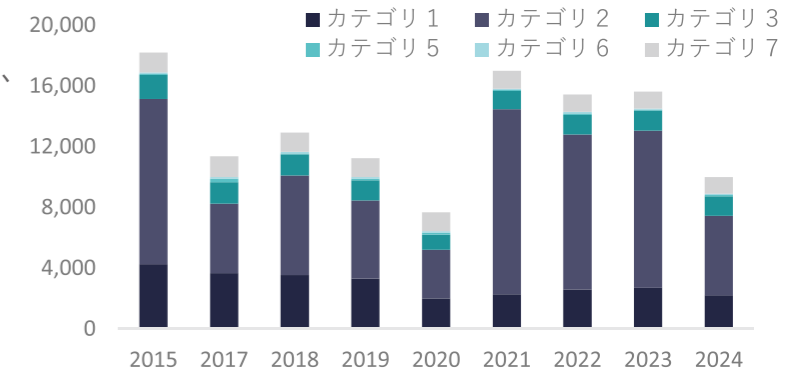
Scope 3

現状

Scope3のうち、事業活動による排出量が多いと考えられる6つのカテゴリの排出量を算出しています。特に大きいのは建設工事等を含むカテゴリ2（資本財）であり、年次による差が大きくなっています。

時系列の推移をみると、カテゴリ1（原材料）は2015年度と比較して低減傾向にあります。一方で、カテゴリ5（事業から出る廃棄物）は2023年度から2024年度に約2.1倍へ増加しており、廃棄物削減の取り組みを強化していく必要があります。

Scope 3 総計 (t-CO₂eq)



環境に配慮した調達

調達規程における位置づけや環境物品等の調達の推進のための方針を策定し、環境に配慮した物品調達に取り組んでいます。



廃棄物管理

廃棄物追跡量を公表するとともに、リサイクル率の向上・リユースを目的としたキャンペーンを実施しています。

※次頁参照



気候変動対策に向けた推進体制の構築

カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリションに参画

2021年7月、文科省・環境省・経産省が設置した「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に設立当初から参加し、ゼロカーボン・キャンパス・ワーキンググループ、地域ゼロカーボン・ワーキンググループに所属しています。

サステナブルキャンパス検討部会を設置

カーボンニュートラル達成を目指し、サステナブルキャンパス検討部会を設置し、省エネや再エネ導入、廃棄物削減、環境教育など持続可能なキャンパスづくりに向けた方策の検討や推進を行っています。



循環型社会を応援するサーキュラーキャンパス

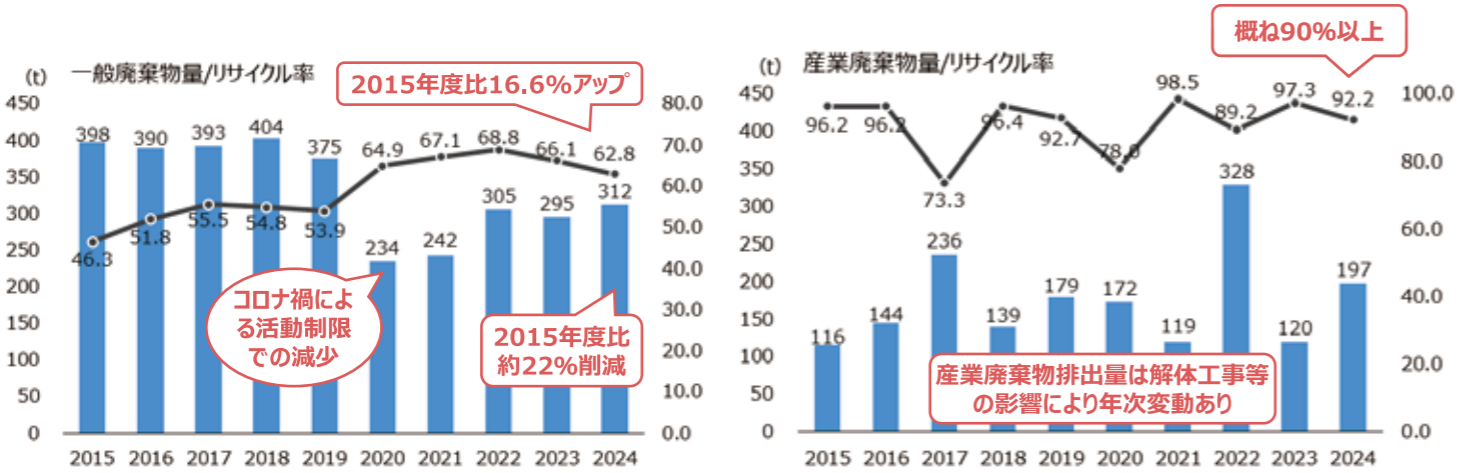
Scope3の温室効果ガス排出量削減に向けて、廃棄物量とリサイクル率を把握しながら、学生への普及啓発だけでなく学生のアイデアも取り入れた4Rの取り組みを推進しています。

4Rの推進

現状

一般廃棄物廃棄量は年々減少傾向であり、2015年度比で2024年度は約22%減となっています。また、一般廃棄物リサイクル率は年々改善傾向であり、2015年度比で2024年度は16.6%向上しています。

産業廃棄物排出量は解体工事等の影響により年次変動がありますが、リサイクル率は一部の年度を除き、90%前後の高い水準を保っています。



Refuse 断る



マイトラリーの持参を促進しており、使い捨てカトラリーを断ることでプラスチックごみの排出削減等を進めています。

Reduce 発生抑制



2020年9月の試験導入よりマイボトル用のウォーターサーバーを校内に9台設置しています。また、消費期限が近いパン等を50円から販売する自動販売機を設置するなど、廃棄物の発生抑制を進めています。

Reuse 再利用



不要となった図書館の図書を教職員や学生に提供する贈呈会を実施しており、図書の再利用を進めています。また、学生による学生が利用していた教科書の再利用なども行われています。

Recycle 再生利用



ゴミ分別・リサイクルを促す行動啓発ポスターを設置するとともに、書類、メモ類等の紙類を捨てることのできる専用ゴミ箱を学内に配置して、リサイクル率向上を図っています。

ネイチャーポジティブ



地域に開かれた緑豊かなキャンパス

2,500本の多種多様な桜をはじめとした豊かな自然環境はキャンパスの魅力の1つです。多摩地域の固有種や絶滅危惧種も見られる、この緑豊かなキャンパスの生物多様性を保全することでネイチャーポジティブの実現に貢献するとともに、植物によるCO₂固定を通じてカーボンニュートラルにも貢献します。

生物多様性保全の実践的な学び



豊かな自然環境を活かして、理工学部久米川准教授の授業では、キャンパス内の植物の種子から苗作りを行っています。現地種を意識した生物多様性保全を実践的に学びながら行っています。

丹木の歳時記



キャンパスには、絶滅危惧種も含めて多様な動植物が見られます。「丹木の歳時記」としてその季節に見られるキャンパス内の植物や生き物を紹介しています。

樹名板の設置



「相手を大切にするには、まず相手を知る」という考えのもと、久米川准教授の研究室が樹名板を設置しています。樹名板のQRコードを読み取ることで、その植物について自ら詳しく調べられる仕組みになっています。

所有林の評価と戦略的な保全



本学は広域な森林を有しています。今後、所有する森林の環境価値について評価をするとともに、カーボンニュートラルに向けた吸収源対策としての植栽管理を行ってまいります。



久米川 宣一 准教授 理工学部グリーンテクノロジー学科

本学のキャンパスは山の中に整備され、多摩地域の原風景といえる豊かな自然が継承されています。多摩地域の固有種であるタマノカンアオイやカタクリの群落があり、カワセミやキジなどもキャンパスで見ることがあります。こうした豊かな自然に触れられる場所が市街地部から近い場所にあることはとても貴重であり、その価値を皆さんにも知っていただきたいです。

一方で、生物多様性の大切さを知らない学生も多くいますので、まずは知ってもらうことが重要です。そのため私の受け持つ授業の中では、キャンパス内を歩いて周り、植物等について紹介する時間を設けています。知識として知るだけでなく、実際に触れている、経験していることがとても大切だと考えています。以前、子ども達に向けてキャンパスの自然環境を紹介するエコツアーを行っていましたが、これも子どもの頃に自然に触れた原体験があることが人材育成において重要と考えるからです。ネイチャーポジティブへの貢献が求められる昨今、こうした豊かな自然を感じられるキャンパスで生物多様性保全の人材育成を行っていくことが、創価大学としての役割の一つであると感じます。

02 サステナブルなキャンパス

サステナブルキャンパスを私たちが支えています

日常的な生活の中で意識することが少ないかもしれませんが、日々の業務を通じてサステナブルキャンパスを支える職員が数多くいます。今回、物品調達等を通じたサーキュラーな環境づくりを担当する蛭田さん、創価大学のエネルギーを支える前田さんのお二人に話を伺いました。

“当たり前”な皆さんの生活環境を支えています



管理部管理第2課 蛭田さん

<業務内容>

物品調達、備品管理、修理、清掃、廃棄などみなさんにとって当たり前にごしやすい環境を整えていくことが私たちの役割です。大学内にある施設だけでなく、寮で使用する消耗品や家電などの管理も行っています。

サステナブルな取り組み

学生の皆さんからも分別の意識の向上や廃棄物の削減に向けて意見を伺いながら、ゴミ分別表示の作成やミックスパーゴミ箱を設置しています。また、教職員に向けても環境にやさしい物品購入を促すための説明会やマニュアル作り等を行っています。

学生に向けて

ゴミの削減や分別へのご協力をお願いします。プラスチックは汚れていてもプラスチックなど、大学キャンパスは家庭とゴミ分別の方法が異なることへの注意が必要です。迷う際には、一度捨てる前に分別表示を確認してください。また、マイボトルやマイ箸を利用することもゴミの削減につながります。一人一人が生活の中でゴミの削減にむけてできることを意識してほしいです。

“当たり前”に設備が使える環境を支えています

サステナブルな取り組み

耐用年数を迎えた蛍光灯をLED照明へ更新するとともに、更新機器の選定時には、省エネ性能が高い機器（トップランナー）をベースにしています。また、太陽光発電設備の設置や、空調運用の管理やエネルギー使用量データの分析、日常的な使用量のチェックによる省エネ促進、グリーン電力の購入など、カーボンニュートラルに直結する省エネに務めるとともに、エネルギーのグリーン化にも取り組んでいます。

学生に向けて

暖房 22℃、冷房 26℃の空調の設定温度は守ってください。省エネ法に基づき、空調の設定温度を管理しています。室内が寒いと感じる場合は、上着や重ね着、ひざ掛けなどを活用する「ウォームビズ」。暑いと感じる場合は、軽装や通気性の良い服装による「クールビズ」にご協力をお願いします。



電機室 前田さん

<業務内容>

大学の設備（電気・空調・衛生）の管理を行っています。具体的には教室の照明・コンセント・エアコンそしてトイレなどがいつでもおり利用できる状態を維持しています。また、エネルギーデータの検針・分析や法令順守に基づく点検計画を作成しています。

サステナブルな学生生活を支える学内スポット

学生が日常的な移動や食事の中で“サステナブルな選択”をできるように、キャンパス内にはサステナブルなスポットや設備を設置しています。こうした環境づくりを通じたサステナブルなキャンパス整備を進めています。



節約しながらプラごみ削減

マイボトル利用を促すために、学内9カ所に給水スポットを設置しています。



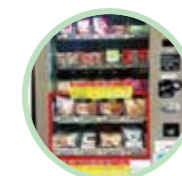
運動も兼ねてエコに貢献

シェアサイクルポートを創大門や正門横、オレンジパーキング等の駐輪場に設置しています。



健康習慣の継続を応援

ニュープリンスホール（食堂）では、100円朝食を提供しています。



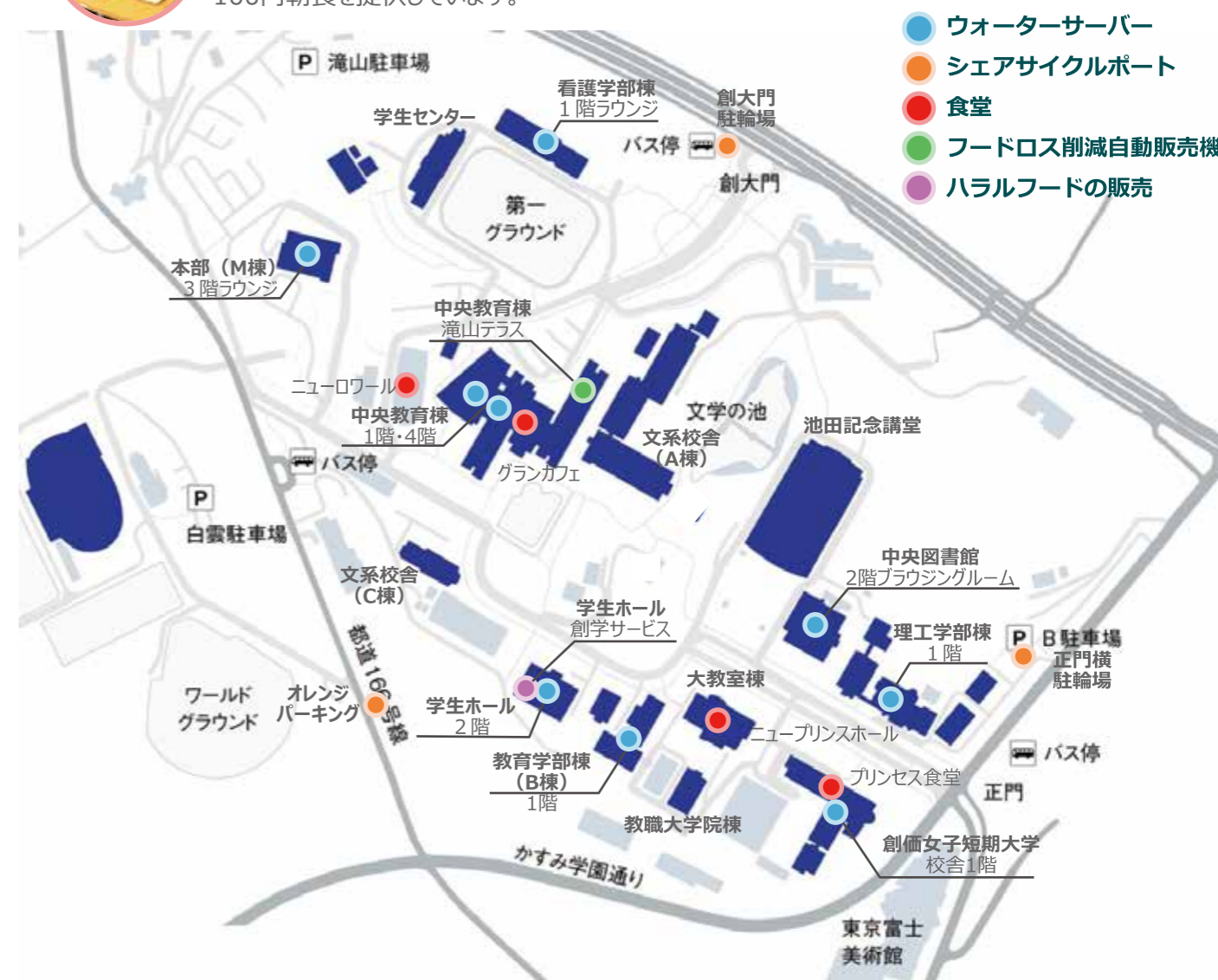
財布に優しくフードロス対策

消費期限が近い菓子パン等を安く購入できるフードロス削減自動販売機を滝山テラスに設置しています。



ハラルフードにも対応

学生ホールでは、ハラルフードにも対応した多様な食品が購入でき、留学生の生活を支えています。



03 実践的な学びの提供

学びを深め、サステナブルな思考を育成

教室の学びから、学生主体の実践へ

体系的にSDGsを学ぶ SDGs副専攻

SDGs副専攻は、学部・学科の枠組みを越えてSDGsに関する知見を幅広く修得できる制度です。本プログラムにおいて、必修科目2単位および選択科目16単位の計18単位を修得することで、卒業時に「副専攻：SDGs」として認定されます。認定内容は成績証明書および卒業証明書に記載されるほか、4年次に所定の要件を満たした場合は、卒業見込証明書にも反映されます。本副専攻での学びが、就職活動や進学における自身の強みとなることはもちろん、実生活への応用や将来の可能性を広げる一助となることを期待しています。

環境と開発

共通科目

SDGs副専攻制度の必修科目。平和とは何かを問い直し、持続可能な開発や環境問題の視点から、平和な社会の構築を考えます。教員の他に、専門家やゲスト講師による特別講演も含まれています。



気候変動の経済学

経済経営学部

経済学の視点から気候変動の原因・影響・解決策を学び、政策や理論を議論します。



環境マネジメント

経済経営学部

地球環境の現状を理解し、環境問題の視点から、企業が直面する課題と取り組みを国内外の視点で学びます。



人間の安全保障論

法学部

国家中心の安全保障から「人間の安全保障」への転換を軸に、現代の多様な脅威と国際秩序を考察し、グローバルな視野を養います。



ジェンダーの社会学

文学部

ジェンダー規範に基づく社会の仕組みを、データと社会学の視点で学び、フェミニズム思想の経緯と現状から現代社会の仕組みを学びます。



環境教育論

教育学部

環境問題とSDGsを基礎から理解し、持続可能な社会構築に向け、私たちにできる行動を探るなど、実践的で多角的な内容となっています。



生態環境工学

理工学部

生態環境工学を通じて、人間と自然生態系の共存を目指し、生態系の仕組みと自然エネルギーを理解し持続可能な生物資源管理等を学びます。



Global Social Policy

国際教養学部

国や地域を越えて共有される社会問題とその政策的対応を学びます。(使用言語：英語)



座学を通じた知識を得るだけでなく、その知識を活かした実践までできる環境があります。授業やゼミを通じて、学生が主体的に実践したサステナブルなプロジェクトを紹介します。



創大の移動をもっと便利に、エコにしたい！
「創大生も脱炭素に貢献したい、移動をもっと便利にしたい」、そんなゼミ生の探究心から研究が始まり、シェアサイクルの導入に至ったプロジェクトです。

https://www.soka.ac.jp/sodai_days/2024/06/9802/



えっ、スプーンまで食べられるの!?
地域の米粉を活用したアップサイクル製品の開発に学生が参画しています。使用後はパクッと美味しく食べられるスプーンを開発しました。ゴミを出さない新しい『食』のスタイルを創価大学から発信しています。

https://www.soka.ac.jp/science/news_science/2025/10/new6/



食堂での食べ残しをAIがチェック！
食べ残しをAIがチェックするアプリを学生が開発。カメラが『完食』を判定することで、ポイントがもらえるなど楽しみながらフードロスゼロを目指す、創大生らしいユニークな挑戦となっています。

<https://www.soka.ac.jp/news/2025/11/1126-1>



『捨てない』が、これからのスタンダード！
廃棄予定だった生地や、再生素材「BRING™」の生地を採用し、自分たちでデザインしたオリジナルTシャツを開発。大学生協での販売まで実現した、学びを形にする実践型プロジェクトを展開中です。

https://www.soka.ac.jp/sodai_days/2025/02/0210/

学生の声をカタチにする仕組み

創価大学は単なる意見収集にとどまらず、オンラインアンケート・学生自治会などを通じて、学生の声を大学運営や支援策に反映する体制を整えています。また、学生がSDGsや地域貢献に積極参加・貢献できる多彩な支援や仕組みがあります。

SDGsグッドプラクティス制度

SDGsの達成を目指して、貢献度の高い取り組みや実現可能性の高いアイデアを表彰し、実現に予算が必要な場合は大学として最大500,000円まで助成。グッドプラクティスに採択された事業のうち、2年目以降も事業継続を希望する学生グループをサポートする仕組みも整えています。



SDGsアンケート

SDGsに関する学生の認知・関心・行動および大学の取り組みに対する認知・意見に関するアンケートを実施。学生の意識を可視化し、大学全体の取り組みをアップデートするための重要なツールとなっています。

2025年度の調査結果

https://wwwstorage.soka.ac.jp/7117/7036/1459/02-2_HPSDGs2025.pdf

全学協議会

学生・教職員・理事会の代表による大学運営に関する意見交換を行う場。「学生こそが大学の主役である」という考えに基づき、「サステナブル・キャンパス」の実現についても、学生たちの声を積極的に取り入れるようにしています。



SDGs対話・ネットワーキング会合

SDGsの達成に向けて、学生・教職員・学外の専門家などが集まり、学生が実施中の研究や活動に対し、学外の専門家から助言をもらい、社会実装に向け、対話を通じて研究をブラッシュアップしていく会合。SDGsに関して学外の専門家との対話を促進し、ネットワークを広げています。テーマは、毎年検討されています。



SDGs学生委員が、学生生活で実践できる具体的なサステナブルアクションをまとめた冊子を作成しています。



SDGs推進センターでは毎年度、SDGsに関する取り組み内容をまとめたSDGsレポートを作成しています。



創価大学



カーボンニュートラル達成に向けたロードマップ



学生自治会ホームページ



Aspire Soka Instagram



SDGs推進センター



学友会ホームページ



学生寮ホームページ

地域連携



八王子市環境教育・環境学習

国の動向・事例など



環境省ホームページ
脱炭素ポータル

Other

近年の社会動向等に関してより詳しいことが知りたい方は、こちらを参考にしてください。



環境省ホームページ
国連気候変動枠組条約に関する会議等の開催状況



IUCN-Jホームページ
※ IUCN : 国際自然保護連合日本委員会

<SOKA Sustainable Campus 2026>

発行日 : 2026年4月2日

発行人 : 学校法人創価大学 管理部 部長 石山 光明

編集担当 : サステナブルキャンパス検討部会・SDGs推進センター学生委員